



株式会社 ファルマ

弘前市北横町 19-1
Tel 0172-37-6016(代)

発行：編集委員会
印刷：小野印刷

■ 第 135 号 ■



グループディスカッションの報告をする工藤事務長

全日本民医連職場づくり・ 職場教育実践交流集会 in大阪

ファルマ弘前薬局 事務長 工藤 敏子

1月10日(木)～11日(金)、全日本民医連職場づくり・職場教育実践交流集会が大阪で開催されました。最初に、全日本民医連教育委員長の宮腰幸子氏より問題提起がありました。職場教育が意識的に取り組まれるためには、職場管理者の教育に対する姿勢と人が学び育つ職場環境が必要だと強調されました。

次に、6事業所より多彩な職場教育実践報告がされ、SDHを把握する問診アンケートの取り組みから、気になるカンファレンスへつなげた事例や、手遅れ事例(妊婦検診中

断、心肺停止出産)をきっかけに、組織の方針を明確にし、管理者自らが目指す道を指し示して職場教育を進めた事例等が報告されました。

2日目は、「医療介護活動の二つの柱の実践と多職種協働」そのなかでの職員育成」と題して、全日本民医連副会長で千鳥橋病院院長の山本一視氏による講演が行われました。

医療介護活動の新しい二つの柱は医療理念であり、その担い手の成長を抜きに実践しないと教育の重要性を強調されています。SDHの視点、基本的な人権・多職種協働、

この三点は医療介護活動の二つの柱には書かれていませんが、実践するうえでは大切な前提であるとおっしゃっていました。

また、多職種協働はホットな話題となっていていますが、単なる職能の仕事の合計ではなく、協働の能力であり、もはや単なる専門職だけでは不足だと話されています。実際の現場では、職能以前の問題が発生しているとして、コミュニケーション不足・縦割り・チーム間の権威勾配等を挙げ、まだまだ多職種協働は発展途上にあり、学びが必要であると強調されていました。

集会に参加して、学習や運動は民医連だからやらなければならないので

断、心肺停止出産)をきっかけに、組織の方針を明確にし、管理者自らが目指す道を指し示して職場教育を進めた事例等が報告されました。

2019年新年互礼会

ファルマ浪岡薬局 薬剤師 雪田 友莉恵

出張報告 会終了後、同会場13階にてファルマ新年互礼会が開催されました。

まず石川社長より、新年のご挨拶がありました。昨年の薬価改定に引き続き、薬局業界にとって厳し

い時代を迎えますが、社員一同力を合わせ、新たな気持ちで業務に取り組むことを意思統一しました。加えて今年4月からの一連の選挙では、国民の声を政治に反映させるため、協力することを確認しました。

恒例の余興は、ファルマのスター・テンソンと仲間たちが担当しました。テーブルごとに、人間知恵の輪・借り物競争をしました。楽しいひと時を過ごし、さらなる親睦を深めることが出来ました。

はなく、医療人として必要なことであり、そのためには、役職者が組織理念への確信をもつことが、今後の教育活動に大切なことだと強く感じました。



日本薬剤師会学術大会の報告をする菅原薬剤師

1月5日(土)弘前パークホテルで行われた出張報告会に参加しました。薬剤師や事務より、2018年に参加した行事報告がありました。今年

出向している方のお話も聴き、学生への思いや普段の業務の様子などを知ることができました。このような機会でないところから、非常に興味深く聴くことができました。発表を聴いて私も参加してみたいと思うものや、参考にしたいと思う発表がたくさんありました。毎年行われるものばかりではないので参加できる機会を大切にしなければいけないと感じ、また多くのことを学んでいきたいと思いました。

2018年出張報告会

ファルマ弘前薬局 鈴木 菜夏

2019年 株式会社ファルマ 新年互礼会



石川社長より新年のご挨拶



弘前市の医療の実態について報告しました

弘前市との懇談

ファルマ弘前薬局 薬局長補佐 高橋 和希

12月9日(日)東京都内で開催されたプライマリ・ケア認定薬剤師研修会に参加しました。今回のテーマは「女性のライフステージにおける医療との関わり」であり産婦人科領域の知識を深める良い機会となりました。



プライマリ・ケア認定薬剤師研修会

ファルマ弘前薬局 薬剤師 小田切 望

女性だけでなく男性参加者も多く関心の高さが窺えました。

研修会は講義形式で行われた為グループディスカッションの機会はありませんでしたが、産前産後の母体の変化や各世代に起こりやすい疾患・治療についてなど幅広い内容を学ぶことが出来ました。最近の話題としては、出生前診断・TORCH症候群・HPVワクチン・緊急避妊薬の一般用医薬品化見送りの件が挙げられていました。

1月25日(金)無料低額診療(無低診)事業利用者の保険薬局での自己負担減免と、迅速な介護保険の認定調査を求めて弘前市と懇談いたしました。無低診を利用して、緩和ケアや糖尿病インスリン療法などには高額な自己負担がそのまま発生してしまうこと、また、無低診を勧めても薬代が減免にならないために利用に至らないことなど事例を踏ま

緊急避妊薬の一般用医薬品化見送りの件では、見送りの理由に販売にあたって現在の薬剤師の能力に疑問があるという意見も見られたようです。まだまだ薬剤師の働き、能力が評価を受けるに至っていないことは残念ですが、今回の研修会を通して期待されている部分も多くありさらに目に見える積極的な活動・取り組みが求められていると感じました。

弘前市の医療の実態について話してきました。なかなかこちらの熱心な想いが伝わらず、感觸としてはいま一つでした。介護の認定調査についても、待ったなしの現場の目標設定と市との間にギャップがあり、かみ合っていない対話となっていました。市の協力があれば、もっと救える命、救える暮らしがあると思います。地域の医療、介護は現場の方だけでなく、行政も一体となって取り組んでいかなければいけないので、良い関係を築きながらこれからは現場の生の声を届けていく必要があると思います。

第27回 国民の医薬シンポジウム

ファルマ弘前薬局 主任補佐 佐藤 武志

12月16日(日)今回初めてファルマ職員として東京全労連会館で行われたシンポジウムに参加しました。

普段の業務ではなかなか確認できていない「ワクチンの利点・不利益」について学ぶことができました。

ワクチンは、病気になつてからの治療薬とは異なり、健康な人に使用するもので、より高い安全性が求められています。しかし、HPVワクチンは他のワクチンと比べて数多くの副作用による犠牲者を生んでしまいました。新しい仕組みのワクチンであるものの安全性がしっかりと確認できておらず、さら

に、効果も他のワクチンと比べて有効性の劣るものを政府として定期接種化し、わずか2か月で中止になるといってお粗末な結果となりました。その後、頭痛や倦怠感など軽微なものから記憶障害・筋力低下、自己免疫疾患の誘発など重症のものまで、長期間にわたって副作用が発現しています。そこで、2016年7月に全国一斉提訴という事で、九州・大阪名古屋・東京で薬害ではないかと訴訟を起こしています。

このような状況の中、日本産科婦人科学会のホームページには、近年子宮頸がんが増加しているグラフが掲載されていますが、実は、ある年度を境に子宮頸がんの分類が変更となり、件数に変動があったため、そのことには触れておらず、単純に増加したと見えません。しかし、一般の方がこのグラフを見ることが、子宮頸がんを防ぐためにワクチンの積極的な接種をしなければという意志の誘導へとつながることが容易に予想されます。これは意図的な情報操作なのではと有識者も指摘しています。しかし、有識者から指摘されてもなおグラフを訂正するまでには至っておりません。しっかりと安全で有効なワクチンであ

れば積極的な接種も推奨されますが、現状のままでは個人的には正直お勧めできません。

隈本邦彦氏の最後のスライドの言葉「副作用は薬が起こすが、薬害は人が起こす」この言葉を報告の締めとし、これからの業務などでも、患者様のため活かしていきたいと思えます。



HPVワクチンについて話すジャーナリストの斎藤貴男さん

写真紹介

ファルマ 一ツ谷薬局 健康教室



患者様の悩みを聴くことができる良い機会でした

1月31日(木)ファルマ 一ツ谷薬局で健康教室を行いました。講師は安田薬剤師で「頭痛について」のテーマでした。日頃から頭痛の悩み抱えている方の参加だったので多くの質問があり、直接声を聴くことのできるとても良い機会となりました。

黒石薬局健康教室



過去最高43名の参加でした

2月9日(土)ちとせ会館で黒石薬局による健康教室を行いました。参加者は過去最高の43名で、大川薬局長が「高脂血症」について話しました。サバ缶を使った炊き込みご飯の試食もあり、「楽しかった」と好評でした。

ヒバクシヤ国際署名青森連絡会第3回総会・記念講演会

本部 課長補佐 阿部 千佳子

12月16日(日)青森市アウガにて、ヒバクシヤ国際署名青森連絡会第3回総会・記念講演会が開催されました。当日は86名の参加がありました。

記念講演は、日本原水爆被害者団体協議会の代表委員である田中熙巳氏を講師に「核兵器禁止条約をめぐる情勢と今後の取り組み」のテーマで行われました。

田中氏は自身も長崎で被爆され、おばさんのご家族6名中5名が亡くなっ

た当時の体験も交え講演し、黒焦げで亡くなった姿が今でも脳裏に焼き付いていることを話してくれました。

私が田中さんの講演の中で心に強く響いたことは、2017年7月に12ヶ国の賛同を得て、核兵器禁止条約は採択されましたが、ここで終わりではなく、これから「廃絶条約」にしていくことが大事であること、また核兵器を保有している国の国民が自ら自分たちを守るために

核兵器はいらないと声をあげていかなないとダメだという言葉でした。

ヒバクシヤ国際署名はファルマでも取り組んでいます。この署名活動についても「この署名運動を通して市民間の対話を盛んにしていく、つまり自分が署名を願った人が『自分もやらなくては』と思うような署名活動をしていくことが大事だ」と話してくれました。私



ご自身の体験も話してくれました

も署名してくれた人がどんどんつながるような署名活動になるように、今まで以上に対話を大事にしながら署名活動をしてほしいと思います。

9条「改憲発議」阻止の学習会

本部 水木 孝之

1月19日(土)本社会議室で9条「改憲発議」阻止の学習会に参加しました。



改憲をめぐる情勢と安倍政治の本質について学習しました

講師は県九条の会共同代表で津軽9条の会代表の神田健策氏でした。安倍政権は大企業や富裕層を手厚く優遇し、その他国民の税負担をさらに増や

べいのオンパレードと、不誠実かつ国民に負担ばかりを強いる政権です。こういった枚挙にいとまがない事例を振り返りながら学習会は進みました。

今、辺野古では、まともに対話もないまま新基地建设が強行に推し進められています。この調子では、現在トー

東北ブロック青森平和学校

藤代薬局 主任補佐 澁谷 友明

2月3日(日)青森市アピオあおもりで東北ブロック青森平和学校が行われました。参加人数は50名以上だったそうです。

この中で印象に残ったのが日本平和委員会事務局次長の岩月康範さんの講座の中の「戦地はどこから来たのかを軍人に尋ね、from OKINAWA」と言った時にすべてアメリカのせいにしていく必要があるように感じました。

地を置いていく日本に責任は無いのか?という発言です。

この言葉を聞いた時私は、沖縄や基地のある場所の人々だけではなく全国民が真剣に考えなければいけない問題なのではないかと感じました。軍人はアメリカ人だが、基地を置くことを許可している日本にも同様に責任が伴うように感じました。辺野古埋め立てを強行しようとしていますが、国民一丸となって反対の声を上げていく必要があるように感じました。

第5回 原発ゼロをめざす運動全国交流集会

ファルマーツ谷薬局 主任補佐 須藤 江利加

1月26日(土)霞が関ビルで行われた「第5回原発ゼロをめざす運動全国交流集会」に参加しました。

当日は全国から参加者が75名集まりました。「脱原発・再生可能エネルギー社会の構築に向けて」と題し、和歌山大学客員教授の和田武氏による記念講演を聴きました。

①世界のエネルギー最新動向と市民・地域主義による再生可能エネルギーの普及について、②日本の再生可能エネルギー普及の現状と課題、③日本でも市民・地域主導で再生可能

エネルギー社会の構築を、という三つのお話がありました。

世界では再生可能エネルギーの普及が進み、発電・熱利用・輸送燃料の全分野で急増しているそうです。再生可能エネルギーの発電量は、原発に比べ10倍近くを占め、自然エネルギーを利用した発電がいかに進んでいるのを知りました。

特別報告として、福島県労連議長の斉藤富春氏による福島県の現状と課題についてのお話がありました。



再生可能エネルギーについて話す和田武氏

2、400台あるリアルタイム線量計を、2021年3月までに順次撤去・汚染土壌を道路の路床材に利用する計画・トリチウム汚染水の海洋放出問題など、福島県が抱える問題がたくさんあるのだと知りました。

非常に危険でコストのかかる原発は一刻も早くなくし、再生可能エネルギーの普及を進めることが重要だと強く感じました。

わたしのお気に入り

ファルマ弘前薬局 薬剤師 中村 光樹

私には小学校6年生の甥っ子がいます。甥っ子は青森市の野球クラブチームに所属し副キャプテンをしています。ポジションはショート、打順1番です。堅実な守備、走力、そしてチームでは声を出しモードメーカーを担っています。休みの日に試合の応援に行くと、真剣なプレーと仲間を気遣う姿に毎回感動と勇気を貰います。試合後は勝っても負けても「良い試合を観させてもらった。ありがとう!!」と握手をして試合会場を後にするのが恒例です。

年始には、青森市選抜代表として千葉県で開催されたCBS全国6年生選抜大会にポジションサード、打順2番で出場し、準優勝という結果を収めて帰ってきました。優勝出来なかったことを悔やんでいましたが、伯父の私にとっては天晴れ!

小学生の野球なんて…と甥っ子が野球をやり始めた当初は思っていたのですが、今はそんなことは微塵も感じません。本当に凄い!小学生でも私以上の身長の子どもはごろごろ居ますし、投げる球の速さには驚きです。子どもの可能性は無限だと感じさせられます。私は運動神経が悪くはない方だと自負しております(笑)しかし一緒にキャッチボールをするとうち加減され、甥っ子には鼻で笑われます。

普段の甥っ子は、試合の様子からかけ離れた小学生です。例えば、「ねえ、知ってる〜?あの人40過ぎてるのにまだ結婚してないんだよwww」と第三者に言うが如く私に言うてくる、小柄でお茶目な小学生です。

そんな甥っ子も春から中学生です。因みに私は薬剤師3年目。甥っ子に負けたくないよう、精励します。



センター前ヒットを打つ甥っ子



甥っ子応援歌のTシャツを着て写る中村薬剤師(左)

新 人 紹 介



藤代薬局
おさない ちえ
小山内 智絵

12月3日より藤代薬局で世話になっている小山内智絵と申します。

前職も調剤薬局事務をしておりました。その経験を活かせる仕事を再びしたいと思いついて入社を志望いたしました。以前より興味があった在宅活動も盛んに行っているため毎日新しい経験ができ、充実した毎日を過ごさせていただいております。

好きな言葉は臨機応変です。臨機応変に動けるように早く仕事を覚え、戦力になれたいです。



黒石薬局
わかぎ とも
若城 友子

この度、黒石薬局の事務員として働くことになりました。若城友子です。

車の運転と食べることが大好き(特にラーメン笑)、そして何でも行動して楽しむのが得意です。薬局勤務は初めてとなりますが、今まで経験がないからこそ新しい職種にぜひ挑戦したいという気持ちで入社させていただきました。



ファルマ弘前薬局
うちやま ななえ
内山 七重

調剤薬局で働くのは初めてですが、一日も早く戦力になれるように頑張ります。よろしくお祈りいたします。

写真紹介 津軽保健東中支部へ出張出前講座

1月19日(土)津軽保健東中支部へ出張出前講座を行いました。参加者は19名で、ファルマ弘前薬局の西沢薬剤師が「薬とサプリメント」について話しました。

参加者からは薬局や薬剤師の印象がガラリと変わるほど良かったと好評を得ました。



「とても勉強になった」「分かりやすかった」など多くの感想をもらいました

津軽保健藤崎支部へ出張出前講座

1月21日(月)津軽保健藤崎支部へ出張出前講座を行いました。講師はファルマ弘前薬局の藤田薬剤師で「薬の飲み方、サプリメントの有効性」について話しました。参加者は18名で、薬の飲み忘れに気を付けたい、サプリメントの飲み方についてゆっくり話を聞きたいなどの感想がありました。



終了後は全員で豪華な昼食をいただきました

津軽保健北支部へ出張出前講座

1月26日(土)津軽保健北支部へ出張出前講座を行い、藤代薬局の木村薬局長が「正しい薬の飲み方」について話しました。

参加者22名全員から「とてもわかりやすかった」と大好評でした。



講座開始前は参加者の方から郷土料理について教わりました